

Writing Support Center News Letter

ライティングサポートセンターニュースレター

No.008 発行日：2025年5月13日

ライティングサポートセンター・ニュースレターは、当センターの活動を、先生方により知っていただき、ご活用願うこと、学生に向けて利用を促していただくことを目的に発行しています。

巻頭言

『ナニワ金融道』とアカデミック・ライティング

学修支援・教育開発センター長 出羽 孝行

1990年代に一世を風靡した『ナニワ金融道』という連載漫画がありました。当時大学生だった私は勉強で忙しく(?)、ほとんど読んだことがなかったのですが、先月、ふとしたことから電子ブックで『ナニワ金融道』を読む機会があり、最近は通勤の合間に少しずつ読み進めています。

内容は帝国金融という、いわゆる「街金」会社で働く灰原という20代の駆け出し営業マンを中心に、どう見ても返済能力が怪しい借り手にお金を貸しつつ、返せなくなったときには容赦ない取り立てを敢行する街金業者の様子が描かれています。ただ、単に高利貸しに追い込まれる力なき庶民の姿を描いているのではありません。お金を取り巻く現実社会の裏側に迫りながら、保証人と連帯保証人の違いなど、一般の人が知らないお金にまつわる知識を学ぶことが出来るということで、経済学のテキストとしても活用されるなど、当時のビジネスマンの必読書とさえ言われていたそうです。

今回、この原稿を書くにあたって改めて原作者の青木雄二が書いた著書や朝日新聞の連載記事を見ていて気付いたのは、「自分の頭で物事を考えないと大変なことになる」というメッセージです。実は、私がこれまでに直接的、間接的に出会った、社会活動をしている人びとが共通して言っているのは、「自分の頭で物事を考えること」です。よく言われるように、情報化社会ではSNSやネット媒体などを通じて大量の情報を得ることが出来るようになりました。しかし、それらの情報を見極め自分の頭でものを考えることは以前にも増して難しくなっているように思われます。

元毎日新聞記者で福島原発事故を追ってきた日野行介は、「健全な民主主義を支える基盤は、行政の情報公開と報道による監視」だとしています。調査報道によって社会の権力構造に潜む闇を明らかにし、責任の所在を明らかにできると述べています(日野行介,2018『除染と国家—21世紀最悪の公共事業—』集英社新書、p.247参照)。つまり、綿密な取材や行政文書に基づいた記事を書くことは、民主主義を守るためのジャーナリストの責務ということです。このことはジャーナリストによる調査報道に限らず、アカデミック・ライティング全般に通じることではないでしょうか。

(次頁へつづきます)



大学生の皆さんは研究者やジャーナリストになる人もいますが、それ以外の様々な職に就き、多様な生き方をする人のほうが多いでしょう。ただ、ここで取り上げた青木雄二や日野行介のメッセージから分かるように、自分でものを考え、事実に基づきながら論理的に人にものごとを伝えることは自分だけのためだけではなく、民主主義を守る上でとても重要なことだと言えます。つまり、アカデミック・ライティングを学ぶことは単に大学でレポートや論文を書く方法にとどまることなく、自分や自分達の子孫がこの社会で自分らしく生きることができる社会を創ることに繋がるのです。龍谷大学で学んでいる全ての人びとがライティングサポートセンターを活用しながら、よりよい学びを実現されることを願っています。

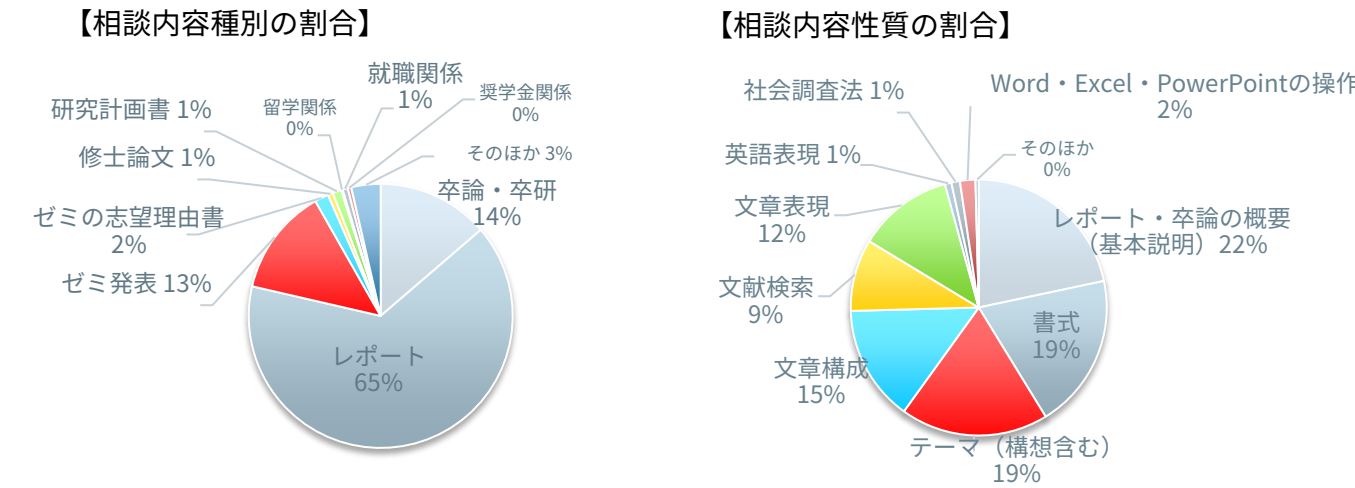
ご報告

2024年度の実績

(1) 相談者総数：1089人（対面：1059人、オンライン：30人）

＊対面相談枠は45分の設定としているため45分の区切り、オンライン相談枠は60分の設定としているため60分の区切りで、それぞれで算出している。以下、特記しないかぎり、これにしたがって算出している。

(2) 相談内容



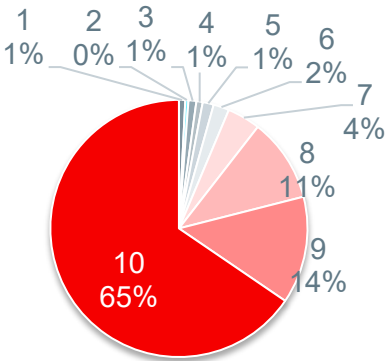
(3) 学部（大学院）・学年別 ＊単位：人 表中、「国際」は「国際文化」を、「先端理工」は「理工」を含む。

学年	文	心理	経済	経営	法	政策	国際	先端理工	社会	農	短期大	学年合計
1年	329	2	0	32	10	6	128	18	26	12	22	585
2年	110	0	5	1	4	1	14	6	39	21	10	211
3年	35	—	8	0	2	0	23	4	19	18	—	109
4年以上	50	—	24	21	2	9	22	7	18	1	—	154
修士	3	—	4	0	0	0	4	0	0	0	—	11
博士	0	—	0	0	0	0	0	0	1	0	—	1
研究生	0	—	0	0	0	0	0	0	17	0	—	17
交換留学生	1	—	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1
学部合計	528	2	41	54	18	16	191	35	120	52	32	1089

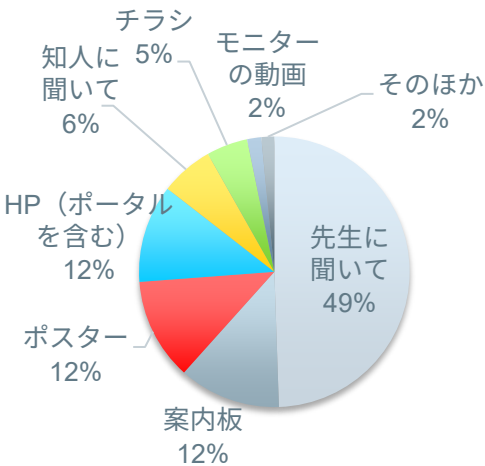
(4) 学部・研究科・学科別 ＊単位：人

学 部・研究科		学科・専攻・課程	相談者数	合計		参考 昨年		
				各学部・ 各研究科	学部／ 研究科			
学部	文	真宗	168	525	1060	32		
		仏教	177			18		
		哲学・哲学	9			25		
		哲学・教育	27			29		
		臨床心理	7			1		
		歴史・日本史	27			7		
		歴史・東洋史	7			18		
		歴史・仏教史	21			14		
		歴史・文化遺産学	6			1		
		日本語日本文学	71			108		
		英語英米文学	4			7		
		交換留学	1			0		
		心理	心理学科			2	2	11
		経済	—			5	37	12
	現代経済		32	20				
	経営	国際経済	0	54		4		
		経営	50			6		
	法	—	4	18		—		
		法律	17			14		
	政策	—	1	16		—		
		政策	16			19		
	国際	グローバルスタディーズ	120	187		121		
		国際文化	67			59		
	国際文化	国際文化	—	—		2		
	先端理工	数理・情報科学	1	35		18		
		知能情報メディア	2			7		
		電子情報通信	7			—		
		機械工学・ロボティクス	11			12		
		応用化学	6			3		
		環境生態工学	8			9		
		理工	機械システム工			—	—	1
	社会	社会	41	102		44		
コミュニティマネジメント		37	19					
現代福祉		24	23					
農	植物生命科	0	52	12				
	資源生物科	3		3				
	食品栄養	3		16				
	食料農業システム	20		17				
	生命科	7		9				
	農学科	19		8				
短期大	社会福祉	32	32	19				
研究科	文学	真宗学	0	3	29	2		
		仏教学	2			10		
		日本史学	1			0		
		日本語日本文学	0			3		
		臨床心理学	0			3		
		交換留学生	0			2		
	経済学	—	4	4		18		
	法学	法律学	0	0		1		
	政策学	政策学	0	0		1		
	理工学	環境ソリューション工学	0	0		2		
		物質科学	0			2		
	社会	社会学	17	18		2		
		社会福祉学	1			2		
	国際学	言語コミュニケーション	2	4		2		
国際文化学		2	15					
農学	食農科学専攻	0	0	2				
合 計			1089	1089	1089	815		

(5) 利用者の満足度
(最高値10、最低値1)



(6) 広報の効果

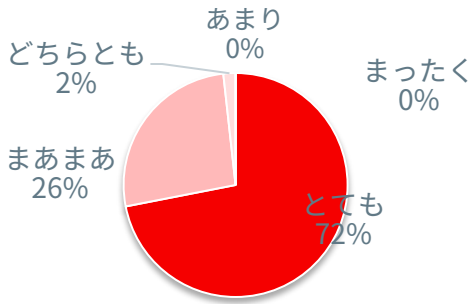


(7) 講習会

日程	講習テーマ	参加人数 (申込人数)	実施状況			
			深草	瀬田	大宮	オンライン
5/22	レポートのタイプを知るーレポートを書きはじめる前にー	44人 (59人)	○	○		○
5/24	レポートの実際を知るー論証とはー	31人 (61人)	○	○		○
10/11	卒業論文・論証型レポートをスムーズに作成するためにー論文の基本、再確認！ー	3人 (-)			○	
10/16	レポート・卒業論文に役立つ資料の探し方	22人 (40人)	○	○		○
10/21	卒業論文・卒業研究をスムーズに作成するためにー論文の基本、再確認！ー	14人 (29人)	○	○		○
10/23	引用の仕方と注・参考文献の書き方	16人 (37人)	○	○		○

*時間帯は、12：40-13：20（昼休み）に実施。
*深草は、和顔館アクティビティホールで実施。瀬田は、智光館B1ミーティングルームで、深草のライブ中継とした。
大宮は、10/11に単独・対面のみで実施。場所は、東覚1Fアクティビティホール

【講習会参加者の評価（役立ち度）】



*ほかにも、先生方と連携して、以下の取り組みを行いました。

- 出張講習
先生からの要望を受けて、レポートにかんするテーマで授業実施教室にて実施しました。年間 9 件（学生受講数合計186人）を行いました。
- レポート課題の連携
年間14件（相談対応数495件）でした。

ご案内 学科・部署との連携

2024年度は、以下のような連携を行いました。

- (1) レポート添削方法の研修
対象：社会学部コミュニティーマネジメント学科ゼミサポーター
日時／場所：5月8日（水） 12：40～13：20 ／瀬田学舎6号館CM学科実習室
解説者：ライティングスーパーバイザー
- (2) 学生部との連携による講習会
日時／場所：5月15日（水） 12：40～13：20 ／オンライン（Google Meet）
テーマ：なるほど、レポートのコツ
解説者：ライティングスーパーバイザー
概要：感想文とレポートのちがい、およびレポートのタイプに応じた書き方を解説する。
- (3) 図書館との連携（おすすめ本）
テーマを定めて、チューターが選書し作成したレビューを展覧してもらった。展覧冊数は、各図書館で、9～13冊
〈第1学期〉期間：6月1日～7月29日
テーマ：宗教と〇〇
〈第2学期〉期間：11月1日～1月20日
テーマ：観光

ご要望は、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

ライティングサポートセンターでは、以下の要領で先生からの依頼を受けて出張講習を実施しております。ご活用くださいますよう、ご案内申し上げます。

【出張講習の要領】

1. 出張講習の実施者・対象・実施対応日・実施場所

- 1) 実施者：スーパーバイザー、もしくはチューター・リーダー（1名）
- 2) 対象：原則として、1年生の受講科目を対象とします。
ただし、その他の授業についても、ご相談の上、実施することを検討させていただきます。
- 3) 実施対応日：月～金曜日 10：00～17：00
- 4) 実施場所：授業実施教室

2. 実施内容

以下の4つの講習テーマを用意しております。そのなかから1つをお選びください。それぞれの概要は、次頁をご覧ください。所要時間は各テーマおよそ60分です（そのうち、センターの紹介やアンケートに少々時間をください）。

- ① レポートにおけるテーマの絞り方
- ② レポートの作り方A——構成を知ろう
- ③ レポートの作り方B——手順を知ろう
- ④ レポートの作り方C——引用の仕方・注と参考文献の書き方

3. 実施までの経緯

- 1) 連絡先 wsc@ad.ryukoku.ac.jp
- 2) 連絡から実施までの流れ
 - ① 実施希望日の2週間前までにご連絡ください。
 - ② その後、簡単な打ち合わせをお願いします。
 - ③ 授業実施教室にて実施します。
- 3) ご連絡いただく内容
 - ① 先生のお名前
 - ② メールアドレス
 - ③ 該当科目名
 - ④ 受講者数
 - ⑤ 実施内容（「2. 実施内容」①～④の中から1つ選んでください。）
 - ⑥ 実施希望日（候補日を3日ほどお知らせください。）
 - ⑦ 実施場所（設備の面で、教室変更をお願いする場合があります。）
 - ⑧ そのほか（ハイブリッド形態で実施するなど）

4) 注意事項

- ・極力実施できるように努めますが、日程が合わないなど、やむをえず実施できない場合はご了承ください。
- ・センターの出張講習は、1つの講義科目につき、1回とさせていただきます。



【各講習テーマの概要】

①レポートにおけるテーマの絞り方

レポート課題を提示されてもどのように取り組んでいけばよいのかわからない学生が数多くいます。本講習では、レポート課題に則して、自分なりの観点を見出していく過程を説明します。まず、自分のレポート課題に対する興味のありどころを考える方向です。次に、興味や関心があることを軸に検索し、収集した情報をもとに広がりや深みを探ります。最後に、レポート課題との関係性を考えます。このような流れを把握してもらう内容になっています。

②レポートの作り方A ――構成を知ろう！

本講習は、レポートを作成する基本的な事項として、その構成を把握してもらう内容となっています。具体的には、まず、レポートを難しく感じる原因に、問いの設定および自分の考えが不明瞭なままに書きすすめる点にあることを解説します。自分の考えが明確にできたら、次にそれを読み手に分かりやすく伝えなければなりません。そのためのレポートの基本的な構成として、序論、本論、結論の役割について簡潔に説明します。なかでも序論の重要性を強調して解説します。序論ではそのレポートで自分が主張したいことを明確にし、本論は序論における主張の裏づけとしての役割を担います。結論は序論との対応を確認し、本論の要点のみを簡潔にまとめます。そのような説明のあと、レポート見本を用いて確認します。

③レポートの作り方B ――手順を知ろう！

本講習は、レポートを作成していく際の思考の仕方と、作成過程を理解してもらうことが、目的となっています。具体的には、「メモ」「構想表」を用いることを重視して説明します。その際に「読む」「調べる」「メモ」の過程を、必要に応じて「メモ」や「構想表」の実例を示しながら解説します。「構想表」については、序論・本論・結論の要点を踏まえながら、「メモ」を活用して論理の道筋をつくっていくあり方を提示します。また、推敲の必要性についても付言し、完成に至るまでの経緯を知ってもらいます。

④レポートの作り方C ――引用の仕方・注と参考文献の書き方

本講習は、引用の大切さを理解すること、そして注・参考文献の書き方をマスターすることが目的です。これらの表記方法については、おおそ『社会学評論』の「スタイルガイド」に拠っています。具体的には「直接引用する方法」や「要約引用する方法」を説明し、実際のレポートを交えて理解を促します。その後、実際に引用したものに注をつけ出典を掲示するという一連の工程を示します。最後に様々な参考文献（インターネットも含む）の書き方を説明します。

ご案内

授業実施教室でのライティングサポートセンター紹介・説明

ライティングサポートセンターでは、学生に利用を促す一環として、先生方が授業をされている教室へ出張して、当センターの紹介・説明を行っております。所要時間は、10分程度です。概要は、つぎのとおりとなっております。

【ライティングサポートセンター紹介・説明の概要】

- (1) ライティングサポートセンターとは
センターの基本姿勢や対応範囲などを説明します。
- (2) よくある相談
具体的にどのような相談がよく寄せられるのかを紹介します。
- (3) 参考資料
ごく簡単にセンターで用意している資料について紹介します。
- (4) 本年度の開室
本年度の開室情報を提示します。

ご要望は、奥付にある【連絡先】までお寄せください。



ライティングサポートセンター（以下、センター）主催の講習会を下記のとおり実施いたします。つきましては、教員各位からも学生に講習会開催についてご案内いただきたくご依頼申し上げます。センターの利用者アンケート結果では、利用したきっかけの半数以上が先生方からのご紹介です。少しでも多くの学生に情報を届けるため、可能でしたら授業のなかでご周知いただけますと幸いです。ご協力いただける場合は、先生方の大切な授業の時間を割いていただくことになり、誠に申し訳ございません。何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

講習会では、チューター・リーダー（大学院生）がパワーポイントを用いて説明いたします。

実施は、対面とオンラインのハイブリッド形式を予定しております。瀬田学舎では、深草キャンパスの講習会をライブ配信いたしますので、PC等を用いてオンライン参加してもらう必要はありません。

記

1. 講習会の内容

- ① 講習テーマ：レポートのタイプを知る－レポートを書き始める前に－

日時：2025年5月15日（木）12：40～13：20

概要：レポートと作文とのちがい、整理型と論証型のとらえ方を解説する内容です。

- ② 講習テーマ：レポートの実際を知る－論証とは－

日時：2025年5月16日（金）12：40～13：20

概要：多くの学生が難しいと感じる論証型レポートの、とりくむべき要点を解説する内容です。

2. 参加方法

人数把握のため、事前のお申込みをお願いしております。

対面：深草学舎 和顔館 1F アクティビティホール

※ 当日の講習会は、オンライン画面を録画します。

また、対面会場を撮影する場合があります。あらかじめご了承ください。

瀬田学舎 智光館 B1F スチューデントコモンズ ミーティングルーム

※ 深草キャンパスの講習会をライブ配信します

オンライン：GoogleMeet ※ 当日参加URLをメールにてお送りします

3. 学生向けのチラシ

龍谷大学ライティングサポートセンターのWebページにアップしています。

ダウンロードしてご利用いただけます。

また、必要部数を申し出ていただければ、印刷してお渡しのすることもできます。

ライティングサポートセンター <https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/>



*お問い合わせは、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

平素よりライティングサポートセンター（以下、センター）の活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、標記の件について、センターを学生に周知していただきたく、下記のとおりご依頼申し上げます。先生方におかれましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

センターでは、学生へのアカデミックライティングの指導を主な目的として、「学生に考えさせる」（答えを教えず、考え出す機会を与える）ことを基本姿勢に、大学院生を中心としたチューターがレポートや論文作成など、書くことに関するサポートを行っています。センターへのご意見・ご質問などがございましたら、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

記

ご依頼の内容

学生にセンターについて以下の事項について、ご紹介ください。

1) センターの概要

レポートや卒業論文など書くことにかかわる相談に応じるところです。センターでは、大学院生のチューターがいっしょに考え、学生のみなさんが自らの答えにたどり着けるようサポートします。レポートや論文、レジュメなどを作成するにあたって、例えば、次のようなケースで当センターをご活用ください。

- レポート課題や卒業論文などについて、どのように取り組めばよいのかわからない。
- 書いてみたものの、文章に自信がないので他の人に意見を聞きたい。
- 根拠になる資料を探したいけど、どうすればいいのかわからない。
- 英語でレポートを書かないといけないけど、形式や表現に自信がない。

＊資料も用意しています。「レポート書式見本」や「レポートを書くためのチェックシート」など、ほかにも多数用意しているので、相談時、チューターに聞いてみてください。

2) 利用方法

各学舎開設場所まで直接お越しください。

【日時】 4月21日～7月29日 11:30～16:00（受付15:45まで）

＊基本は授業実施日に準じます。

【場所・曜日】

深草：和顔館1F スチューデントコモンズ 月～金曜日

大宮：東翼2F スチューデントコモンズ 月・火・水曜日

瀬田：智光館B1F スチューデントコモンズ 水・木・金曜日

【利用方法】 対面・オンラインでの相談が可能です。

◆ 対面での相談について（予約不要）

◆ オンラインでの相談について（要予約）

ホームページ（<https://calendar.app.google/pQy5TmASQ9sVwaks9>）から予約が必要です。

